

## 2004 年度事業計画

「家族の会」は結成から 25 年目を迎える。また、法人化 10 周年の年でもある。結成当時から考えると「ぼけ」をめぐって大きく変わろうとしている。

その一つは、「ぼけ」の人が自ら語り始め、国民に大きな驚きを与えるとともに、「家族の会」としても「ぼけの人の思いを知る調査」から「痴呆の人の思い、家族の思い」を発刊し、一般の痴呆の認識を大きく変わることを示唆した。

二つ目は、国際アルツハイマー病協会第 20 回国際会議・京都・2004 が開催される。わが国だけでなく世界から注目を集め、「家族の会」の存在を知らせる重要な年でもある。

この国際会議は、痴呆介護のあり方について、いろんな角度から論じられ、世界に発信する重要な会議であり、「家族の会」の組織を挙げて取り組まなくてはならない。

### A . 国際アルツハイマー病協会・第 20 回国際会議・京都・2004 の取組み

#### 1 . 国際会議の開催

- (1) 家族の会および国際アルツハイマー病協会 (ADI) の共催で 10 月 15 日より 17 日までの 3 日間、国立京都国際会館で「高齢化社会における痴呆ケア」をメインテーマに国際会議を開催する。参加予定人数は、国外 500 人、国内 1500 人である。
- (2) 各日に「痴呆ケアの将来戦略」「痴呆の人と家族」「痴呆と人権」のサブテーマをもち、7つの基調講演、2つの教育講演、3つのランチョンセミナー、7つのシンポジウム、11のワークショップ、4つの ADI ワークショップ、4分科会の一般報告(口頭発表)、その他ポスター発表、ビデオ紹介を行う。
- (3) ADI に加盟する 66 のアルツハイマー病協会の展示、家族の会支部の展示などを通して ADI、国外のアルツハイマー病協会、家族の会を紹介する。
- (4) ADI が開催する理事会、総会等の会議、および ADI20 周年記念パーティーなどの開催を支援する。

#### 2 . 支部の取組み

「家族の会支部のための国際会議マニュアル」に沿って積極的な活動を推進する。国際会議開催までの支部活動は、国際会議参加の呼びかけが中心となる。

- (1) 支部会員の参加登録は早期登録(8月16日)期間中に済ませる。  
主催者団体として、早期に参加予定者は登録を済ませ、外部へ積極的に呼びかける体制を築くことが大切である。
- (2) 国際会議リーフレット、国際会議案内書(国内版)の配布  
講演会、シンポジウムなどの集会には積極的に会場に出向き、国際会議リーフレットを配布する。国際会議に関心をもった参加者には、国際会議案内書(国内版)を手渡すなど積極的な参加呼びかけをする。

(3) 支部として積極的に国際会議に参加する。

ブース・パネル展示に出展し、家族の会として支部の活動内容を PR する。(ブース展示の申込締切 5 月 28 日)

(4) 企業・施設に国際会議参加・展示の呼びかけをする。

大学、医療機関、施設、保健所、行政窓口、社会福祉協議会、看護学校、福祉専門学校、企業などに幅広く参加呼びかけの活動をする。

(5) 支部として寄付金の呼びかけをする。

企業に対しての寄付金のお願い、また集会の場での寄付金の呼びかけを積極的に行う。

### 3. 広報活動

国際会議の広報活動は重要である。国際会議事務局として積極的な広報活動を実施する。

(1) 「国際会議ニュース」のメーリングリストを拡大し、出来るだけ多くの人に読まれるように努力する。

(2) ニュースレターの発行

新聞、放送、福祉関係雑誌などに国際会議、家族の会の情報を定期的に発信し、国際会議へのマスコミの関心を喚起する。

(3) 大手広告会社(電通)と提携し、国際会議の特集を組む。

### 4. 国際会議事務局としての取組み

国際会議運営にあたって、具体的なスケジュール化、企画、運営について緻密な組み立てが要求される。委託会社(ジェイコム)と連携を強化して当日運営に支障をきたすことのない様に万全の準備をして臨む。

(1) 国際会議開催マニュアルの作成

(2) 隔週水曜日に委託会社(ジェイコム)との打合せの実施

(3) 国際会議・運営委員会(仮称)の設置

(4) 会議要員・ボランティア等の決定

### 5. ボランティアの採用

国際会議運営にあたっては、多数のボランティアの動員を必要とする。家族の会世話人からのボランティア、学生、一般企業などから広くボランティアを求める。支部からの積極的な参加を希望する。

### 6. 20 回全国研究集会と同時開催

毎年この時期に開催している全国研究集会は、ADI 国際会議と同じ第 20 回開催となるため、「国際アルツハイマー病協会第 20 回国際会議・京都・2004」と同時開催とする。

### 7. 国際会議のホームページ

国際会議の参加申込、一般報告申込は、インターネットが中心となる。参加者に理解しやすく、又新しい情報を提供していく。

## B. 啓発、相談・支援

### 啓発事業

#### 1. 世界アルツハイマーデーの取り組み

世界アルツハイマーデーの取り組みは、年々定着して来た。特に 2004 年は国際会議を日本で開催する。国際会議と連動した世界アルツハイマーデーとして積極的な啓発活動を推進する。

##### (1) ポスター、リーフレットの作成

リーフレットは、全国一斉街頭活動、記念講演会を中心に配布する。ポスターは行政、医療機関、施設等に掲示の依頼をする。

##### (2) 全国一斉街頭活動は、9月19日(日)に実施する。

全国の支部が一斉に街頭に出てリーフレットを配布すると同時に、目前に控えた国際会議に備え「国際会議リーフレット」を配布し国際会議開催を喚起する。

##### (3) 世界アルツハイマーデー記念講演会の開催

9月21日の世界アルツハイマーデーを中心に本部(京都・東京)、支部主催の記念講演会を開催する。支部主催の世界アルツハイマーデー記念講演会を開催する支部に対して助成金を支給する。(200名以上の規模の開催でなければならない)

##### (4) 「国際アルツハイマー病協会・第20回国際会議・京都・2004」と連動して世界アルツハイマーデーの啓発活動を推進しなくてはならない。

##### (5) 世界アルツハイマーデーを理解し、痴呆の啓発イベントに対しての協力を依頼された場合は、前向きに対応する。(エーザイフォーラム等)

#### 2. ホームページの充実

##### (1) 「家族の会」ホームページ

「家族の会」のホームページのアクセス、リンクの申し出は毎年増加している。1日の平均アクセス数は、300件を超えている。また、国際会議ホームページの開通により、「家族の会」ホームページのトップページより入るケースが増え、国際会議開催の重要な役割を果たしている。

見易いホームページとしてデザイン、レイアウトの工夫

各ページの更新と管理は専門業者に委託する。

家族の会の活動、介護相談、痴呆の情報、入会案内等の充実

国際会議の情報を積極的に提供する。

##### (2) こども向けホームページ

2002年にこども向けのホームページを開設し、その後アクセス数も順調に推移している。1日250件以上のアクセスを記録しており、関係者から高い評価を受けている。

教材としての見直し

・ 学校での教材としての活用

- ・ 感想文、家庭でのお年寄りとの生活などの作文の掲載  
広報

学校教育の場に浸透するよう広報の仕方を検討し、積極的に働きかける。

#### 相談・支援事業

##### 1．支部活動支援

「家族の会」相談活動の基本は、つどい、電話相談、会報である。支部としてこの相談活動を積極的に推進するため、電話相談を中心に支部助成規程を設定した。

支部電話相談助成規程 全支部が専用電話を持つことを基本とする。

施設・団体などの電話または個人宅の電話を利用している支部は、専用電話を設ける為の資金を助成する。(設置期間の目標 2004 年上期)  
(その電話に出る場合は、「家族の会」 県支部ですと応えられるようにする)

すでに専用電話を持っている支部には次の経費を相談実施状況により、活動費を助成する。

経費の使用例：電話料金、相談室使用料、相談員研修会・研究会費用、電話相談関係用品、相談員交通費、その他電話相談に直接要する費用

##### 2．本部電話相談(通話料無料)

本部電話相談事業は、2000 年度から始め全国的に定着し、毎日多数の相談電話がかかっている。特に支部電話相談との連携を強化し、家族の会電話相談として充実を期す。

- (1) 記録、資料の整備などよりいっそうの体制を固め、効果的な電話相談を実施する。
- (2) パソコンを導入し、効率的な電話相談事業を実施する。
- (3) 電話相談研修会を定期的を開催する。
- (4) 支部電話相談との連携を強化する。

##### 3．ブロック会議の開催

- (1) 支部が日常かかえる問題について協議・意見交換を行う。
- (2) 全国共通テーマを設け、本部・支部の意見交換と情報の提供、本部施策の徹底を図る。
- (3) 電話相談、つどい、会報、若年期痴呆など各ブロックに応じた研修会を開催する。
- (4) 支部間の交流と親睦を深める。

#### C. 介護保険、成年後見制度、若年期痴呆への取り組み

2004 年でゴールドプラン 21 が終了する。介護保険制度施行 3 年間の高齢者介護の現状と課題を整理するとともに、高齢者がたとえ介護を必要とする状態になっても尊厳を持って暮らせるように、2015 年までに実現すべき高齢者介護のビジョンが

示めされた。「家族の会」としては介護者の当事者団体として、「ぼけても安心して暮らせる社会」を築くため、その役割と責任は極めて大きい。  
また、若年期痴呆の問題も家族の会としては緊急に取り組む重要な課題と考える。こうした問題に取り組むため専門委員会を設置し、積極的に課題究明に努力し、制度の改善、見直しへの意見を提案する。

介護保険・社会保障専門委員会

サービス評価・権利擁護専門委員会

若年期痴呆専門委員会

「若年期痴呆に関するアンケート調査」を実施。

#### **D. 組織・財政問題、国際会議への取り組み**

2002年度に各支部に対し、支部組織の実態調査を実施した。その結果100名未満支部などの活発な動きの兆しが見えてきつつあるが、各支部の現状を把握して更に会員拡大への努力をしなければならぬ。また、2004年10月には、国際会議が開催される。その運営に当たっては本部財政とともに堅実な見通しを立てて臨むことが大切である。

組織財政専門委員会

国際会議専門委員会

#### **E. 機関誌の発行**

会報「ぼ～れば～れ」の編集は、編集委員会で基本方針を確認し、年間の編集内容を決定する。毎月の編集会議で各号の内容を決定して発行している。

- (1) 表紙の体裁と記事内容を充実して、読者に読みやすく親しみやすい会報を目指す。
- (2) 会員の声を反映できる「会員さんのお便り」欄を充実させ、会報を通じ会員間の交流を図る。
- (3) 国際会議の情報を積極的に会報で知らせる。
- (4) 痴呆の幅広い情報を提供する。

#### **F. 調査・研究**

- (1) ぼけの人の思いを知る調査（継続）
- (2) 若年期痴呆に関するアンケート調査

#### **G. その他**

日本興亜福祉財団助成交流・研修

(財)日本興亜福祉財団の助成を受けて、支部主催によるリフレッシュ旅行を実施する。スケジュールは下記の通り。

- (1) 2004 年度日本興亜福祉財団支部交流・研修会の内容説明(2003 年度代議員会)
- (2) 開催支部の決定(2004 年 1 月末)
- (3) 開催内容の報告(2004 年度総会)
- (4) 支部リフレッシュ旅行の実施(6 月より支部スケジュールに沿って実施)

以上の事業計画に沿って積極的な活動を推進していく。特に本年度は「国際アルツハイマー病協会・第 20 回国際会議・京都・2004」開催という大きな行事を控え、組織を挙げて取り組まなくてはならない。海外からも多くの関係者が会議に出席するので、主催者として、会議にふさわしい組織体制を整えて関係者を招待したい。

「家族の会」の活動範囲を介護家族への支援に限ることなく「予防からターミナルケアまで」幅広くとらえながらそれぞれの問題を捉えた専門委員会を設け、さらには介護の質の向上を求める各種の検討会、委員会に理事・世話人の立場から積極的にかかわり、「家族の会」がぼけの人と介護家族の立場にたった発言・提言をして「ぼけても安心して暮らせる社会」に向けたより積極的な活動を推進する。